

御殿場市立図書館等整備基本計画

令和4年11月

御殿場市



目次

第1章 基本計画策定の趣旨	- 1 -
1 基本計画策定の目的	- 1 -
2 これまでの検討経緯	- 1 -
3 関連計画との整合	- 2 -
第2章 新図書館等の将来像	- 3 -
1 新図書館等の将来像	- 3 -
第3章 施設整備のコンセプト	- 4 -
1 基本コンセプト ～モチーフは御殿場の伝統民家～	- 4 -
2 施設の整備方針	- 4 -
3 新図書館への期待（市民ワークショップ）	- 9 -
4 新図書館への期待（児童ワークショップ）	- 13 -
5 ワークショップを踏まえた施設整備の方針	- 14 -
第4章 サービス水準	- 15 -
1 蔵書数	- 15 -
2 年間貸出目標	- 15 -
第5章 関連施設連携計画	- 18 -
1 関連施設・広域ネットワーク	- 18 -
第6章 施設計画	- 20 -
1 配置計画	- 20 -
2 建築計画	- 20 -
3 配架・書架計画	- 24 -
4 郷土資料展示計画	- 25 -
5 DX 計画	- 27 -
6 木材利用計画	- 27 -
7 環境配慮への取り組み	- 28 -
第7章 管理運営計画	- 29 -
1 管理運営の考え方	- 29 -
2 図書館の機能移転・開館計画	- 30 -
第8章 事業計画	- 31 -
1 施設整備に関する費用	- 31 -
2 事業スケジュール	- 31 -

第1章 基本計画策定の趣旨

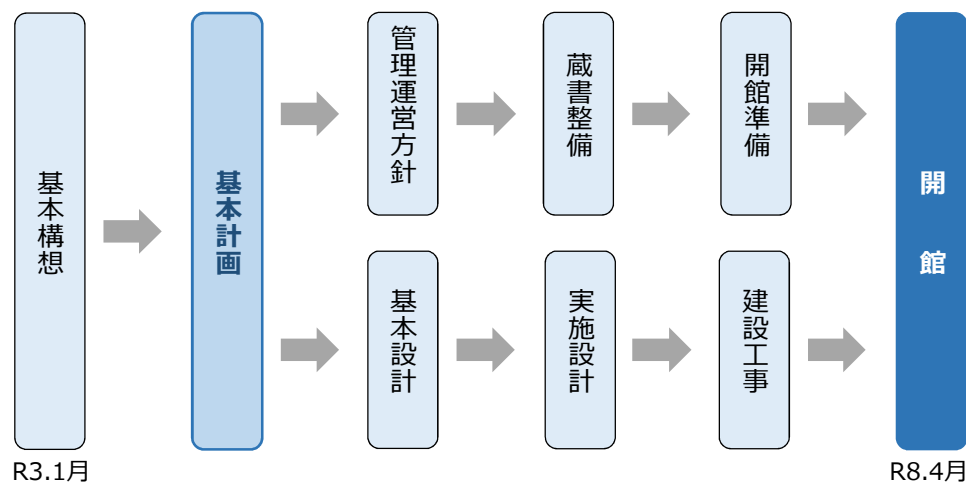
1 基本計画策定の目的

御殿場市立図書館（以下「現図書館」といいます。）は、建物の耐震強度の不足による安全性の確保、施設の老朽化による雨漏り等の修繕、蔵書・資料の増大によるスペースの不足等のハード面の他、利用者の図書館ニーズの多様化への対応等が強く求められています。

これらを踏まえ、現図書館の現況・課題の整理、新図書館等の実現可能な望ましい機能を検討し、学びを育み、市民がつながる施設とするとともに、郷土資料館を複合化した魅力あふれる施設とすることを基本的な方向性とした御殿場市立図書館等整備基本構想（以下「基本構想」といいます。）を令和3年1月に策定しました。

基本計画は、基本構想を踏まえた新図書館等の整備に向けて、より具体的な方針を策定することを目的としています。今後、基本計画に基づき基本・実施設計を実施していきます。

■開館までの流れ



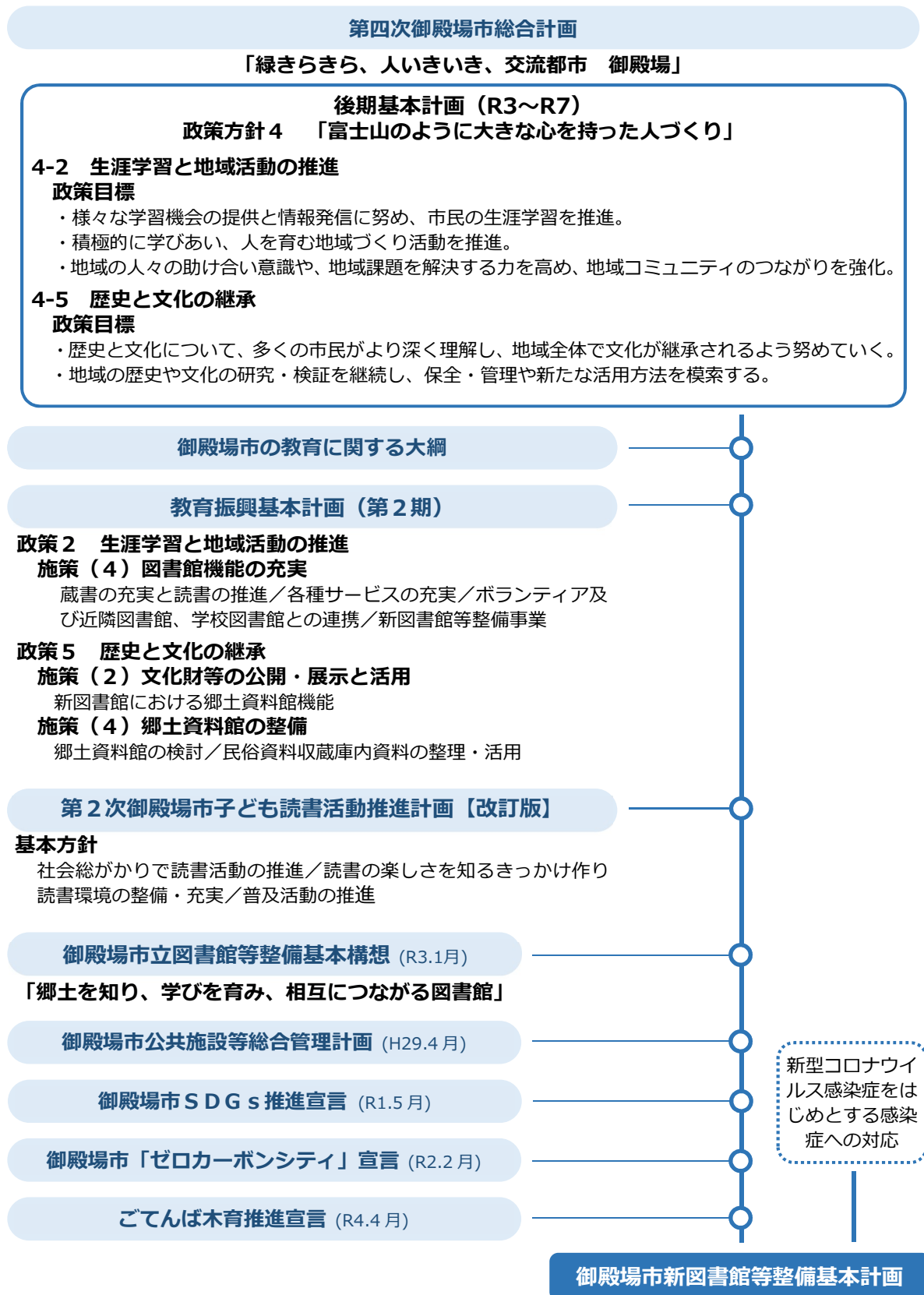
2 これまでの検討経緯

平成26年度	・市立図書館耐震補強及びリニューアル計画策定基礎調査
平成27年度	・御殿場市立図書館整備方針策定調査
平成28年度	・御殿場市立図書館等将来構想策定庁内検討委員会開催
平成30年度	・移転新築への方針変更 ・基本構想コンセプト、理念、方針を審議・検討し、庁内意見を集約
令和元年度	・御殿場市立図書館等整備基本構想策定懇話会 組織 ・市民ニーズの把握（利用者アンケート調査の実施） ・関係団体へのヒアリング
令和2年度	・「御殿場市立図書館等整備基本構想」策定（令和3年1月）
令和3年度	・御殿場市立図書館建設工事に係る設計者選定プロポーザル実施 ・設計業務委託契約締結（令和4年1月）

3 関連計画との整合

基本構想を踏まえた基本計画を策定するとともに、基本構想策定以降に改定された市上位計画と整合を図るものとします。

■新図書館等整備に係る上位計画・関連計画等の概要



第2章 新図書館等の将来像

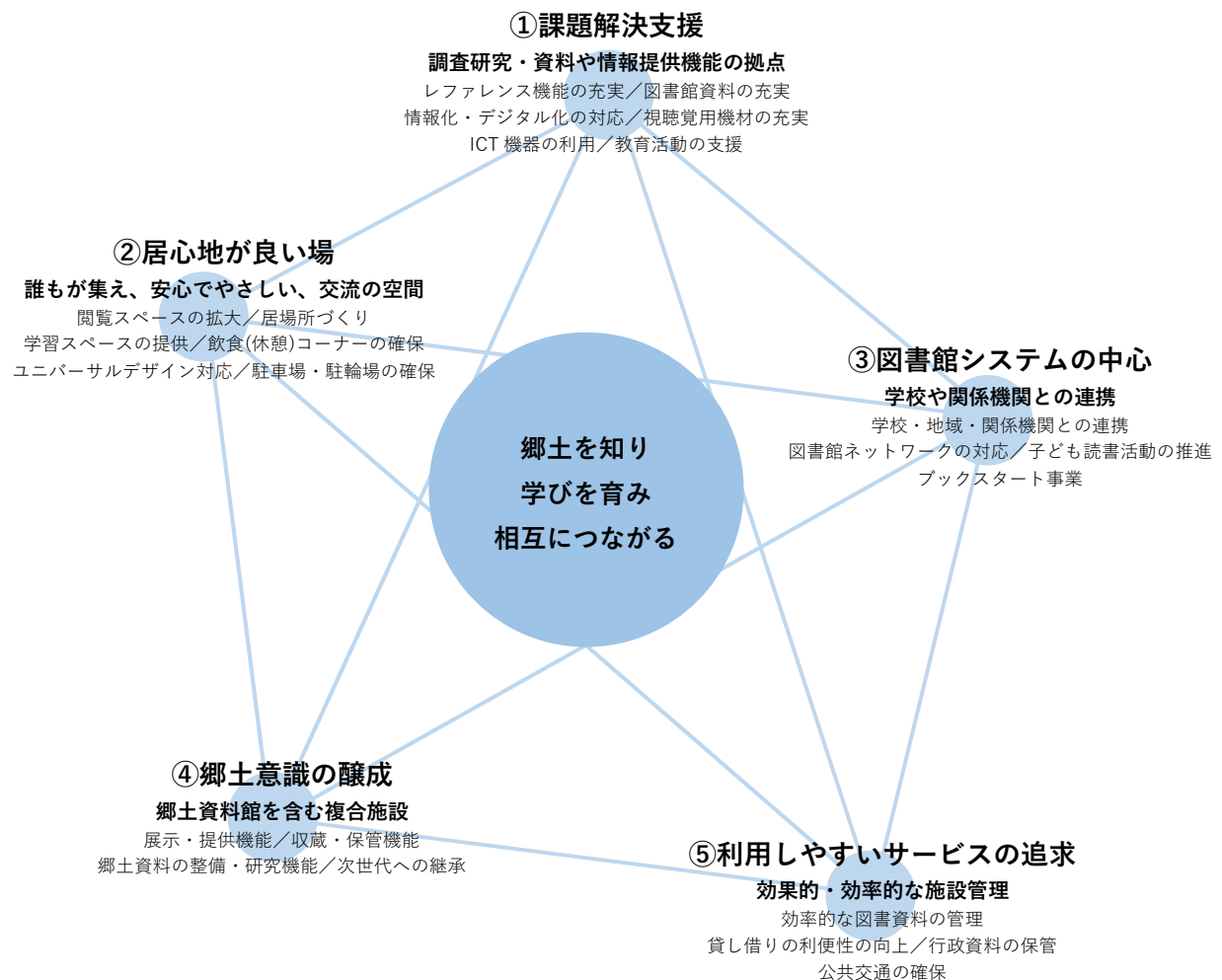
1 新図書館等の将来像

基本構想では、新図書館等の将来像を「郷土を知り、学びを育み、相互につながる 図書館」としています。この将来像には、郷土を培ってきた先人の暮らしを学び郷土愛を育み、読書活動を通じてライフスタイルを豊かにし、様々な交流を通じて互いにつながるができる新たな図書館とするという思いが込められています。

また、学びを育み、市民がつながる施設とすると共に、複合化により魅力を高める施設とすることを基本的な方向性とし、5つの具体的な方向性に基づいた施設の整備方針・方策が示されています。

基本計画の策定にあたり、市民ワークショップを通して幅広い世代から得られた意見を踏まえ、基本構想の5つの方向性を実現するために、より具体的な機能・サービスを検討します。

■新図書館等の将来像



第3章 施設整備のコンセプト

1 基本コンセプト ～モチーフは御殿場の伝統民家～

基本構想を踏まえた新図書館の実現に向け、風土と共にあった御殿場の伝統的な古民家が持つ4つの大きな特徴を取り入れ、この場所にしかない、みんなが集えるリビングのような新図書館「みくりや・ほんてらす」を基本コンセプトとします。



2 施設の整備方針

新図書館の整備にあたり、まちとのつながりや自然豊かな敷地環境との関係、居心地の良い内部空間を形成するための具体的な方針を整理します。これらの方針を基本としながら、ワークショップの意見を踏まえ、SDGsの理念「誰一人取り残さない」の達成に向けた新図書館の整備へ繋げていきます。

(1) まち・ひととつながる新図書館

市内に点在する公共施設と「本」を介した連携づくりを検討します。また、郷土資料コーナーや多目的会議室を併設することで交流の場としての活用を促進し、来るたびに新しい発見に巡り合え、また訪れたい施設づくりを目指します。

① まちじゅうとしょかん/ネットワーク・ライブラリー

新図書館がハブの中心となり市内各所に本棚を設置。本を巡回させ、施設間を有機的につなげる試みを検討します。

② まちのなかのくつろぎの場/インクルーシブ※・ライブラリー

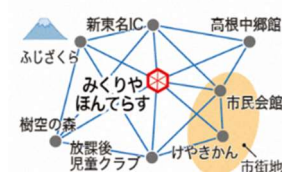
開放的な大空間と家庭的な小空間を織り交ぜた一体空間とし、あらゆる立場の人の利用を前提とした新図書館とします。

※インクルーシブ：「ソーシャル・インクルージョン」（社会的包摂）という言葉から来ており、あらゆる立場の人の利用を前提とした配慮を意味します

③ 偶然の出会いをエスコート/マッシュアップ※・ライブラリー

混然一体な諸室配置とし、さまざまな活動が目飛び込んでくる、いつも新しい発見のある新図書館とします。

※マッシュアップ・ライブラリー：書架・閲覧をはじめとした図書館機能だけでなく、様々な機能が交じり合った図書館のイメージです

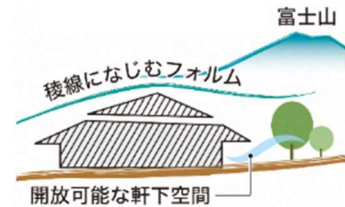


(2) ランドスケープ 一体型の新図書館

御殿場特有の風土を考慮したつくりとします。例えば、^{たつみ}巽（南東）向きの出入口や厳しい自然に耐えうる大屋根、民家の特徴である箱棟などの要素を取り入れつつ、この場所ならではの建物を計画します。箱棟は六角形の形状とすることで市の成り立ちを表現します。

① 地域資源を考慮した建物配置

- ・富士山の方角を軸に、眺望に配慮した建物配置とします。
- ・乾（北西）の冷たい風を遮断するため、^{たつみ}巽向きに出入口を配置し、風土に根差したアプローチ計画とします。
- ・市民交流センター「ふじざくら」との親子利用者等のアクセシビリティに配慮し、連携を強化する配置計画とします。

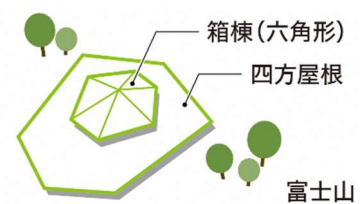


② 市民の誇りとなるランドマーク※

- ・御殿場市の誕生以前の旧 6 町村を象徴とした六角形の箱棟とし、新たなランドマーク※として計画します。
- ・富士山の稜線に馴染む緩やかな屋根フォルムとし、地形や景観と調和したランドスケープ※を形成します。

※ランドマーク：地域を象徴するシンボリックな建物、空間を意味します

※ランドスケープ：広場や公園などの公共空間を意味します



③ 自然と文化の調和がとれた森

- ・落葉広葉樹を補植し、四季彩・生態系の豊かな森を再生します。
- ・水辺には椿や富士桜等、地域で親しまれてきた植栽を計画します。
- ・敷地周囲の景観資源を活かしつつ、回遊できる散策路を整備します。
- ・湧水を活用し自然の生物が集まるビオトープ※を検討し、子どもたちの知育の場として活用できるよう検討します。
- ・敷地内の伐採材を家具や内装材として使用するなど、有効利用するとともに、御殿場の木育※に寄与する計画とします。

※ビオトープ：様々な生き物が共生している生息域や空間のことをいいます。特に小さな鉢や池・小川などの中で人工的に生態系をつくることも示します

※木育：幼児期から原体験としての木材との関わりを深め、豊かなくらしづくり、社会づくり、そして森づくりに貢献する市民の育成をめざす活動のことを示します

■新図書館イメージ図



（３）あらゆる世代を意識したやさしく居心地のよい新図書館

建物を訪れる幅広い年代層、グループ、個人を想定した、利用性・多様性に配慮した計画とします。平面計画だけでなく、家具のレイアウトやサインなど細部に至るまで統一されたコンセプトで計画します。また、天候や季節を考慮したアクセス動線や活動スペースを確保します。

- ・車両動線を敷地外周に寄せ、車道と歩道を明確に分離し、歩行者優先の動線計画とします。
- ・建物内は段差のない床面とし、すべての人が快適に過ごせる図書館を目指します。
- ・広い軒下空間を確保し、雨天時のアクセスや屋外イベントの開催に配慮した計画とします。
- ・子育て世代や幼児・児童、障がい者、LGBT※等あらゆる利用者が安全・安心で使いやすい計画とします。
- ・ピクトグラム※の採用や照明計画とも連動したサインとし、分かりやすさに配慮します。

※LGBT：性的少数者（セクシャルマイノリティ）を表します

※ピクトグラム：一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つを示します

（４）インクルーシブ（あらゆる立場の人の利用を前提とした）な建物づくり

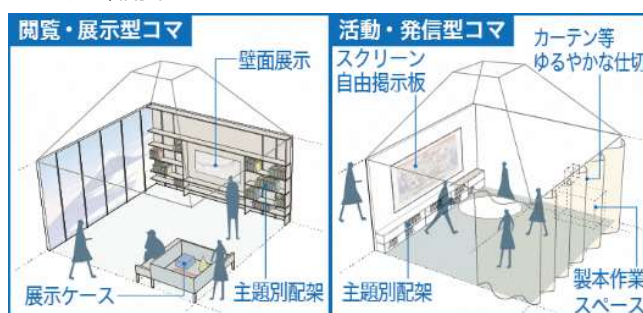
新図書館を利用するすべての人が快適に過ごせ、再び訪れたいと思える施設づくりに取り組みます。段差などの物理的なバリアの解消だけでなく、安心感をもって滞在できる心理的なバリアフリーを目指します。また、民家をモチーフとしてデザインした「コマ※」を点在させ、多様な活動の場を提供します。

※コマ：御殿場地方の伝統的な民家における居間の呼び名です。新図書館計画においても特徴的な場づくりとしてコマの活用を目指しています

■内観イメージ図



■コマの活用イメージ



①図書・郷土展示をワンフロア構成

- ・基本構想の2フロア構成を見直し、分かりやすくバリアフリーなワンフロアで計画します。
- ・閉架書庫を管理諸室の直上に配置し管理動線を最小化します。

②周囲に開かれた放射状の書架配置

- ・サービスカウンターを中心に放射状のNDC※配架とし、一目でわかる平面構成とします。
- ・配架効率を高め、閲覧スペースを充実させるため効率的な書架配置を検討します。

※NDC（日本十進分類法）：日本の図書館で広く使われている図書分類法で、0から9までの数字で大まかな分類から細かい分類へと細分していくものです

③閲覧・交流のための居間空間「コマ」

- ・郷土資料や展示パネルを書架と一体展示した閲覧スペース「コマ」を検討します。
- ・生涯学習活動や宿題支援、ワークショップ※など多様な活動に対応可能なしつらえを検討します。

※ワークショップ：参加者が自発的に作業や発言をおこなえる環境が整った場において、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役を中心に、参加者全員が体験するものとして、学びや創造、問題解決やトレーニングを行う手法です

④身近な郷土展示「御殿場アーカイブ※」

- ・全館展示による効果的な展示を検討し、より多くの収蔵品を公開します。
- ・御殿場の魅力について観光客をはじめ市内外の人にも分かりやすく展示・発信します。

※アーカイブ（Archive）：保存記録・保管所を意味する言葉です

⑤多機能・多用途に使える会議室

- ・可動間仕切壁により多様なレイアウトが可能なしつらえを検討します。
- ・幼保・学校等の課外学習利用において、関連諸室との連携が可能な平面計画とします。

（5）居心地の良い木づかい空間

木材を積極的に用いることで、見た目にも優しい、居心地の良い居住空間を形成します。また、新図書館のモチーフである御殿場の民家においても壁や天井に木材が効果的に使用されてきました。新図書館の内部空間やコマにも、民家のしつらえに倣った内装計画を行います。

①「木材利用推進プラン※」に基づく検証

- ・壁や天井材、書架など木材の温かみを感じられる部位での効果的な活用を検討します。
- ・地場産材の積極利用を検討します。

※木材利用推進プラン：「御殿場市公共建築物等の木材利用推進プラン」を示します

②御殿場ならではの木づかい空間

- ・御殿場の古民家の特徴である、すのこ天井、羽目板壁などを内装仕上げとして継承します。
- ・内装や家具など子どもの手の触れる部位へ木材を多用し、木育の場とします。

■内観イメージ図



（6）内部環境に配慮した人にやさしい新図書館の実現

温熱環境や音環境、最近では新型コロナウイルス感染症など、居住環境をめぐる常識は大きく変化しています。快適な閲覧・読書空間を形成するため、平面計画をはじめ、有効なしつらえや設備の導入検討により、安全で安心、快適な内部環境の形成を目指します。

①感染症対策に配慮した安心・安全な新図書館

- ・利用者対応デスクには脱着式のクリアパーティションの設置を検討します。
- ・2か所の出入口で風道をつくり非常時は入・退の分離が可能なしつらえとします。
- ・軒下空間を有事の屋外退避スペースとして活用します。
- ・自然換気スリット付サッシュを検討し、中間期の換気促進や臭いを効果的に排出します。
- ・CO2濃度に連動した換気システムの導入を検討し、室内環境の保全を図ります。
- ・エレベーターの操作や自動水栓など設備のタッチレス操作を検討します。

②外部環境を踏まえ音環境に配慮した新図書館

- ・内部の静けさを維持できるよう遮音性が高いサッシュの使用を検討します。

(7) 省エネ・省CO₂によるカーボンニュートラルの実現

2050年カーボンニュートラルの実現や、SDGsの達成に向け、より効果の高い省エネ・省CO₂対策を推進します。

① ライフサイクルコストの削減

- ・敷地に適合するバランスの良い構造計画とし、イニシャルコストの削減に配慮します。
- ・地域と施設の特性を取り入れた省エネ手法とし、ランニングコストの削減に配慮します。
- ・高耐久な建物構成により更新性を高めた長寿命な建築計画とします。

② 環境負荷の低減

- ・建築躯体の断熱、高効率機器の導入をはじめとする省エネルギー型設備を導入します。
- ・太陽光発電、太陽熱利用などの再生可能エネルギーの積極的な利用を検討します。
- ・環境負荷の少ない材料や資機材（エコマテリアル）等の採用を検討します。

施設の整備方針とSDGsの整理



整備方針 1 まち・ひととつながる新図書館	・ネットワーク・ライブラリー ・インクルーシブ・ライブラリー ・マッシュアップ・ライブラリー	  
整備方針 2 ランドスケープ体型の新図書館	・地域資源を考慮した建物配置 ・市民の誇りとなるランドマーク ・自然と文化の調和がとれた森	 
整備方針 3 あらゆる世代を意識したやさしく居心地のよい新図書館	・すべての人が快適に過ごせる図書館 ・あらゆる利用者安全・安心で使いやすい計画	 
整備方針 4 インクルーシブな建物づくり	・図書・郷土展示をワンフロア構成 ・周囲に開かれた放射状の書架配置 ・閲覧・交流のための居間空間「コマ」 ・身近な郷土展示「御殿場アーカイブ」 ・多機能・多用途に使える会議室	
整備方針 5 居心地の良い木づかい空間	・「木材利用推進プラン」に基づく検証 ・御殿場ならではの木づかい空間	
整備方針 6 内部環境に配慮した人にやさしい新図書館の実現	・感染症対策に配慮した安心・安全な新図書館 ・外部環境を踏まえ音環境に配慮した新図書館	
整備方針 7 省エネ・省CO₂によるカーボンニュートラルの実現	・ライフサイクルコストの削減 ・環境負荷の低減	 

3 新図書館への期待（市民ワークショップ）

市民の多様な意見を取り入れ、これからの時代に合った新しい図書館を整備するため、「あなたの想いが未来を変える!」と題して、「こんな図書館に行ってみたい!」をテーマに市民ワークショップを開催しました。

(1) 開催概要

	第1回	第2回	第3回
日時	令和4年3月26日(土) 13:30~15:30	令和4年4月9日(土) 13:30~15:30	令和4年5月7日(土) 13:30~15:30
場所	御殿場市役所東館 201~203 会議室		
参加者	36名(6グループ 各6名) (市議会議員、各地区からの推薦者、市内中学生代表、市内高校生代表、子育て世代代表、公募による者)		
グループワーク1	プロポーザル案を じっくり見てみよう!	この活動はここでできそう!	こんな場所・空間にしたい! 2
グループワーク2	新しい図書館で こんな活動がしたい!	こんな場所・空間にしたい!	

※感染症のまん延防止措置により全4回から3回に変更して開催

(2) 実施概要

プロポーザル案を参考に、グループ内で新図書館に対する意見やアイデアを付箋に書いて共有し、グループ発表を通じて各グループの意見の共有をしました。第2回及び第3回ではグループワークのテーマをさらに掘り下げ、より具体的な議論を実施しました。

ワークショップで得られた意見やアイデアについては、ワークショップ参加者や市民と共有することを目的として「かわらばん」を発行し、市ホームページで公表しています。

■第3回「かわらばん」

第3回開催! / 03

新図書館の整備に向けた市民ワークショップお疲れ様!

あなたの想いが未来を変える!

このワークショップで、御殿場市では、御殿場市議会と連携して新図書館の整備事業を進めており、令和4年3月1日から本計画の策定に取り組んでいます。市民の皆様と一緒に考え検討していく市民ワークショップについては、今更で発表となります。

第3回は、御殿場市役所東館201~203会議室で、グループワークを中心に進められ、御殿場のグループ2ごとの意見交換、意見の共有を行いました。また、御殿場のグループ2ごとの意見交換、意見の共有を行いました。また、御殿場のグループ2ごとの意見交換、意見の共有を行いました。

第3回 令和4年5月7日(土) 13時30分~15時30分
御殿場市役所東館 201~203会議室

御殿場市では、御殿場市議会と連携して新図書館の整備事業を進めており、令和4年3月1日から本計画の策定に取り組んでいます。市民の皆様と一緒に考え検討していく市民ワークショップについては、今更で発表となります。

第3回は、御殿場市役所東館201~203会議室で、グループワークを中心に進められ、御殿場のグループ2ごとの意見交換、意見の共有を行いました。また、御殿場のグループ2ごとの意見交換、意見の共有を行いました。

こんな場所・空間にしたい! 2

グループワークでは、御殿場のグループ2ごとの意見交換、意見の共有を行いました。また、御殿場のグループ2ごとの意見交換、意見の共有を行いました。

子どもエリア

- 読書の楽しさを、楽しく行いたい
- 紙芝居、人形劇、読み聞かせ等は、読書の楽しさを、楽しく行いたい
- 大型絵本、外国絵本の読み聞かせのコーナーがほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい

カフェ・飲食

- 読書の楽しさを、楽しく行いたい
- 紙芝居、人形劇、読み聞かせ等は、読書の楽しさを、楽しく行いたい
- 大型絵本、外国絵本の読み聞かせのコーナーがほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい

外部空間

- 読書の楽しさを、楽しく行いたい
- 紙芝居、人形劇、読み聞かせ等は、読書の楽しさを、楽しく行いたい
- 大型絵本、外国絵本の読み聞かせのコーナーがほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい

学習室・YA

- 読書の楽しさを、楽しく行いたい
- 紙芝居、人形劇、読み聞かせ等は、読書の楽しさを、楽しく行いたい
- 大型絵本、外国絵本の読み聞かせのコーナーがほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい

その他

- 読書の楽しさを、楽しく行いたい
- 紙芝居、人形劇、読み聞かせ等は、読書の楽しさを、楽しく行いたい
- 大型絵本、外国絵本の読み聞かせのコーナーがほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい
- 子どもが自分でも読めるような本がほしい

第1回 ワークショップ

現図書館で行われている活動や新図書館で行いたい活動について、グループワークを通じて具体的にしました。

活動主体は、「図書館スタッフ」、「ボランティア」、「市民活動グループ」の3種類であることがうかがえます。これらの活動は新図書館でも継続して行えるような施設づくりが必要と考えられます。

■参加者より紹介のあった現図書館での活動

活動主体	現図書館で行われている活動例
図書館スタッフ	図書館バックヤード見学/ボランティア・職業体験の受入/図書館まつり
ボランティア	読み聞かせ（絵本・紙芝居・昔話）/朗読劇/作品展示
市民活動グループ	統計グラフ教室/手作り絵本教室/古文書を読む会

新図書館で行いたい活動として、「本・展示」の分類における、図書館の本を紹介・掲示できるような場所・しつらえの要望や、「学習・子ども支援」の分類における、夏休みなどの長期休暇を活かした活動について多くの要望が出ました。「イベント・交流」の分類では、本に関するイベントをはじめ、交流の場としての図書館の活用や、市民交流センター「ふじざくら」との連携を提案する意見が出ました。

■新図書館で行いたい活動として意見が出たもの

分類	新図書館で行いたい活動例
本・展示	本の感想展示/個人の本を貸し出しできるコーナーの設置
学習・子ども支援	読書推進活動/学習相談会/不登校児童のケア/読書感想文の書き方講座
学び・体験	ワークショップ/郷土学習/講演会の開催
イベント・交流	ブックトーク※/ビブリオバトル※/コンサート/ナイトライブラリー
自然・富士山	野鳥観察会/写真撮影会/富士山講座

※ブックトーク：子どもたちあるいは図書館の一般利用者を対象に、教師や図書館員などが、特定のテーマに関する一連の本をエピソードや、あらすじ等を紹介し、図書の利用を促進しようという目的を持って行う教育活動

※ビブリオバトル：参加者同士で自分の気に入った本を持ち寄り、その本の魅力を紹介し合う書評ゲーム

■第1回ワークショップの様子



第2回 ワークショップ

第1回で具体的にしたい活動の内容（にぎやか/静か）と規模（人数）について議論しました。続いて4つのテーマ（子ども、カフェ・飲食、書架・コマ、学習室・ヤングアダルト）について「こんな場所・空間にしたい!」といった意見を出し合いました。

新図書館で行いたい活動として、「本・展示」の分類では、利用者間の交流を推進するきっかけとして本を活用する提案が多く、少人数の愛好会から大人数での読み聞かせなど多様な活動が見込まれます。「学習・子ども支援」の分類では、不登校の子ども支援としてリモート授業を受けられる環境の整備、「学び・体験」の分類では、講演会やイベントの要望のほか、子育て世帯がイベントに参加しやすいよう託児体制の整備といった意見が出されました。

■新図書館で行いたい活動の内容・規模（代表例）

分類	静か	⇔	にぎやか
本・展示	本の紹介		読み聞かせ
学習・子ども支援	不登校の子ども支援	夏休みの宿題・講座	郷土学習
学び・体験	託児	カフェ・司書体験	講演会/ワークショップ
イベント・交流	ブックトーク	ビブリオバトル	学校紹介
自然・富士山	写生会	農業体験	自然観察ツアー

■第2回ワークショップの様子



第3回 ワークショップ

第2回のテーマに4つのテーマ（郷土資料・外部空間・まちじゅうとしょかん・その他）を加え、計8つのテーマについて意見を出し合いました。

「カフェ・飲食」では、期待感や好意的な意見が多かった一方で、本が汚れないかといった意見や、においを懸念する意見も見受けられ、継続的な検討が必要と考えられます。

「子どもエリア」では、子どもが自由にくつろげるような空間づくりを求める意見が多く、泣き声や他利用者へ迷惑をかけないような対策に対する意見が多く見受けられました。

「学習室」では、多様な学習スタイルを受け入れられるレイアウトや場所づくり、音に配慮した環境づくりが求められました。

「書架エリア・コマ」では、本を読みたい気持ちを妨げない家具配置やコマを活用した活動・展示に関する意見が多く出されました。

「郷土資料」では、立ち寄りやすさに関する意見が多く、興味・関心を持続させる工夫が求められています。

「外部空間」では、自然環境やテラスを活用した多様なアイデアが出されました。

第3章 施設整備のコンセプト

■テーマ別意見（第2回ワークショップ意見含む）

	施設・設備に関するアイデア	管理運営に関するアイデア
カフェ・飲食	飲み物を テラス に持っていきたい ゆったりとできる ソファ・イスの選定 飲食エリアを限定せずに 広げてもいいのでは	カフェ内でも 本が持ち込める ようにしてほしい 持ち込む本は 限定して カバーを付けてほしい におい が少ない食べ物のみを提供する レンタルカフェ制
子どもエリア	子どもの声と読書環境の 静粛性のバランス 子どもが 自分で 本を探せるような工夫 地面に 座ったり、寝ころべるスペース 大型本も広げて読める 広々とした スペース	読み聞かせ の充実 育児コンシェルジュ 子どもシネマサロン 託児
学習室	複数人でも利用しやすい オープンな 学習室 あちこち に学習ができる場所を 個人スペース/集団スペースの すみ分け 集中できる空間 にするために壁を防音にする	不登校の子どもたちの 居場所 メンター・サポーター が時々いる 学習室の混み具合をインターネットで 公開
書架エリア・コマ	本を探しながら、 その場で 少し読みたい イスの種類や読む場所に 多様性 が欲しい 近く に本を置けるテーブルがあると良い 私設図書館 スペースを設けてほしい コマ で研究活動などが見えるようにしてほしい 芸術、暮らし、宇宙、社会のコマに 展示 しては	閉架書庫 内の図書の紹介、イベント 漫画 を置いてほしい 読書感想文の課題図書を 電子書籍 で借りたい 流行・最新の本を 目立たせて ほしい レンタル書架 図書館ツアー
郷土資料	郷土資料館と郷土のコマを 隣接 させる ついでに 立ち寄りやすいようにしたい 子ども が興味を持てる空間に 扉を設けない 方が入りやすい 学校の 授業 で使えるようなスペースがほしい	郷土資料は 写真撮影OK にする 目で見て、触れられる 体験型 の展示がいい 今現在の 出来事も郷土資料の一つとなりうる 本や物だけでなく伝統文化 披露 の機会を設ける 郷土資料の定期 スタンディングセミナー
外部空間	外でも 本が読める ようにしたい 1人でも ゆっくりできる場所が欲しい テラスで 勉強・飲食 できる 子どもが ぐずったとき に外へ行ける 雨でもテラスを使える 深い軒	外用 のぬれても汚れても良い絵本を用意 野草観察会 部活の 発表 をする ナイトイベント 安全な 散歩 コースとして楽しみたい
まち・地域		ふじざくら との連携 学校図書館 との連携 本棚オーナー制
その他	図書館の隅々まで バリアフリー であってほしい 読書通帳 の導入	本の 消毒 をしっかりとしてほしい 市内 巡回バス などあると良い 市内の学校の 活動の展示

■第3回ワークショップの様子



4 新図書館への期待（児童ワークショップ）

より市民に親しまれる新図書館の整備に向け、市民ワークショップと同じく「あなたの想いが未来を変える！」と題して、「市民の学びや交流の中心になる新図書館を考えよう！」をテーマに児童ワークショップを開催しました。

（１）開催概要

	第1回	第2回
日時	令和4年6月2日（木） 9:25～12:10	令和4年6月16日（木） 8:30～15:25
場所	玉穂小学校	
参加者	玉穂小学校5年生 約80名（3クラス）	
ワーク1	今の図書館で行った活動や思い出を教えて！	市民の学びと交流の中心になる 新図書館を考えよう！
ワーク2	今の図書館の「良いところ」と 「改善したいところ」を教えて！	
ワーク3	最近の図書館の気に入ったところを教えて！	

※ワークショップに向けた導入として令和4年5月31日（火）に御殿場市立図書館の見学会を実施

（２）実施概要

第1回は、ワークショップの導入として、現図書館で印象に残っている活動や思い出を発表し、引き続き新図書館で継続してほしい内容や配慮してほしい内容についてグループワークを通じて議論しました。

第2回では図書館に関する本や資料を参照しながら、「こんな図書館にしたい」といったアイデアを自由に考えてもらい、イメージ写真やイラストを交えながら各グループでアイデアを発表しました。

児童ワークショップ

第2回意見として、「自然」、「リラックス」、「集中」といったキーワードが多くみられました。また、ペットと一緒に訪れられる図書館や寄り道したくなる図書館、おしゃれな図書館など多数の新鮮な意見が寄せられました。

■ワークショップの様子



■テーマ別意見

	施設・設備に関するアイデア
屋内エリア	自然を取り入れた気持ちの良い図書館 木のあたたかみや、香りのする家具・内装/自然光を取り入れた明るい図書館/室内に植物を置く 居心地が良く、色々な本の読み方ができる図書館 寝ながら本を読む/ロープネットの上で本を読む/クッション/親子で楽しく本を読む 食事しながら読書できる図書館 お腹が空いたら食事できるカフェ/食べながら読める本（カバーを付ける）/駄菓子 集中できる個室のある図書館 一人で勉強・学習ができる空間/本を調べながら勉強する/落ち着いて一人で本を読む
屋外エリア	自然を活かした居心地の良い図書館 ハンモック/ツリーハウス/緑に囲まれて本を読む/外にも本棚を置く/外でも本を読む みんなが楽しく、遊ぶことができる図書館 滑り台/ブランコ/遊具/秘密基地（屋外に小さいスペース）/トンネル 疲れが飛ぶ、リラックスできる図書館 夜空をみながら本を読む/テント/富士山が見える足湯（テーブル付き）
その他	ペットと一緒に本を読む 回転寿司のカウンターのよう回って来た本を読む 寄り道が楽しい図書館（木のアスレチック/お茶が飲める/気軽に読める流行り本） 車やキノコの形をした本棚の近くで本を読む オシャレな椅子や机のある図書館 託児所やマッサージのある図書館 本棚に本物を展示する（図鑑コーナーに生き物や貴重本をガラスケースで展示）

5 ワークショップを踏まえた施設整備の方針

新図書館では御殿場の伝統民家のつくりを建物内外に活かしつつ、この場所にしかない御殿場ならではの施設づくりを検討します。

また、市民ワークショップ及び児童ワークショップでの意見を積極的に取り込み、市民に親しんでもらえる施設づくりを目指します。

■基本方針

- ・御殿場の伝統民家をモチーフにした内外装計画
- ・敷地内の豊かな自然を活かした建物・外構計画
- ・様々な活動を受け止められる場所や家具の検討
- ・全ての世代、特に子育て世代が訪れやすい施設（音、託児、休憩、トイレ等の設備の充実）
- ・図書館と郷土資料館が相互に魅力を高め合える施設づくり

第4章

サービス水準

1 蔵書数

蔵書数は基本構想で算定された整備目標 31 万冊（市民 1 人当たり 3.5 冊）を基に計画します。

また、現図書館には、登録蔵書数以外に旧町村資料や行政文書等の資料 5.3 万冊、民俗資料収蔵庫に古文書等 4,500 点が保管されています。これらの歴史的・文化的に価値のある資料を後世に伝えていくため、資料の保存について検討します。

■蔵書目標

項 目	現図書館 (R4.4.1時点)	基本構想 蔵書目標	計画蔵書数
蔵書数	28.1万冊	31万冊	31万冊
雑誌、映像資料等	1万点	—	1万点※
旧町村資料、行政文書等	5.3万冊	—	5.7万冊※
民俗資料収蔵庫資料	4,500点	—	

※新図書館への移転に向け、保管資料の精査を実施

2 年間貸出目標

基本構想では、年間貸出数を 56.5 万冊/年（6.4 冊/年・人）としています。基本計画では、より多くの来館者の利用に対応できる施設計画とするため、目標とする年間貸出冊数や理想的なサービス要求水準の試算を行います。

（1）目標とする年間貸出冊数の試算

基本計画では新図書館における理想的な年間貸出冊数について、サービス人口 8.9 万人※¹、市の人口当たりの貸出冊数年間の貸出密度（貸出冊数/人口）を 10 冊/年・人※²に設定し、89 万冊/年と試算しました。

	基本構想	目標とする年間貸出冊数
年間貸出	56.5万冊 (8.9万人 ^{※1} ×6.4冊/年・人)	89万冊 (8.9万人 ^{※1} ×10冊/年・人 ^{※2})

※1：市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン推計値（サービス人口）

※2：「貸出密度上位の公立図書館整備状況・2019」における同規模の市町村の人口当貸出点数より算定

(2) 施設サービス水準の設定

目標とする年間貸出目標 89 万冊に基づき、ピーク時の来館者数を算出し、それを基に新図書館の駐車台数や駐輪場の台数、閲覧席などのサービス要求水準について整理します。

①来館者数の試算

サービス水準試算のためにまず来館者の想定を行います。令和元年度の実績より一人当たりの貸出冊数を 5 冊/人^{※1}、貸出利用者を来館者の 50%^{※2}として平均的な 1 週間の利用者数を求めます。

予測する項目	数値基準	計算値	基本構想
目標年間貸出者数	一人当たりの貸出冊数 5冊/人 ^{※1}	89万冊/年÷5冊/人=17.8万人/年	11.1万人/年
年間来館者数	来館者の50% ^{※2} が貸出利用	17.8万人/年÷50%=35.6万人/年	27.7万人/年
1週間の来館者数	52週/年	35.6万人/年÷52週/年 =6,846人/週	

②駐車場の必要台数の試算

1 週間で来館者数がピークとなる休日の来館者数割合を 25%^{※3}、1 日の滞在者数のピーク時間帯を来館者数の 20%^{※2}とすると、ピーク時には館内に 342 人程度の利用者が滞在していることになります。休日の車での来館割合を 80%^{※4}、車一台あたりの同乗者数を 2 人/台^{※2}とするとピーク時には 135 台程度の駐車場が必要となります。

予測する項目	数値基準	計算値	基本構想
1日の最大来館者数	ピーク曜日の来館者数が 占める割合 25% ^{※3}	6,846人×25%≒1710人	
ピーク時間帯の来館者数	1日の来館者のピーク 20% ^{※2}	1,710人×20%=342人	
車での来館者数	車での来館割合 80% ^{※4}	342人×80%≒270人	
ピーク時の必要駐車台数	車1台の同乗者数 2人/台 ^{※2}	270人÷2人/台=135台	60台

③駐輪場の必要台数の試算

自転車利用の中心となる学生は主に平日の利用が見込まれるため、平日ピークの来館者数割合 14%^{※3}、1 日の滞在者数のピークを来館者数の 20%^{※2}、自転車の利用者の割合を 20%^{※5}とすると、ピーク時は 40 台程度の駐輪場が必要となります。

予測する項目	数値基準	計算値
自転車利用が想定される 平日の最大来館者数	平日ピークの来館者数が 占める割合 14% ^{※3}	6,846人×14%≒960人
ピーク時の来館者数	1日の来館者のピーク 20% ^{※2}	960人×20%=192人
自転車の来館者数	自転車利用者の割合20% ^{※5}	192人×20%≒40人（台）

④閲覧席数の試算

②の試算で求めたピーク曜日の来館者数の試算 342 人に必要な座席数について、着座行為率（着座人数/滞在者数）を 65%※2、座席占有率（着座人数/座席数）の平常時のピークを 60%※2 として算定します。休日のピーク時の来館者数 342 人に対して、370 席程度が必要となります。

予測する項目	数値基準	計算値
ピーク時の着座人数	着座行為率(人／人) 65%※2	342人×65% = 222人
ピーク時の必要座席数	座席占有率(人／席) 60%※2	222人÷60% = 370席

※1：令和元年度貸出実績から算出

※2：中井孝幸，秋野崇大，谷口桃子：図書館における利用者属性からみた座席の選択行動と過ごし方-「場」としての公共図書館の施設計画に関する研究 その 1，日本建築学会計画系論文集，Vol.82，No.741，pp.2767-2777，2017.11 及び当市図書館の過去の実績から勘案して算出

※3：当市図書館の曜日別利用統計（2019.9.1-9.30）を基に算定

※4：当市図書館におけるアンケートの実績から算定

※5：中井孝幸「利用圏域の二重構造に基づく疎住地の図書館計画に関する研究」学位論文、2000.7 より、自転車利用者を 20%と想定した。

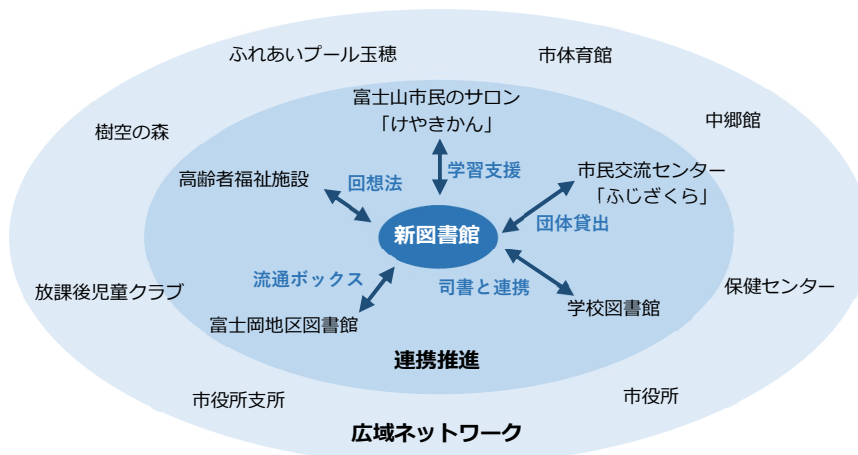
第5章 関連施設連携計画

1 関連施設・広域ネットワーク

新図書館は幅広い年代層や市外からの利用者が見込まれます。また敷地周辺には、市民交流センター「ふじざくら」を始めとする公共施設が隣接することから、周辺施設の利用者による一体的な利用も見込まれます。

一方、現図書館における貸出利用の約半数を児童書が占めていることから、新図書館では若年層の利用促進に注力しつつ、中高年層が図書館を利用するきっかけづくりが必要となります。

■ネットワーク・連携イメージ



(1) 近隣施設との連携方針

計画敷地周辺には、市民交流センター「ふじざくら」を始めとする公共施設が点在し、これらの施設にはさまざまな年代の利用者が見込まれるため、図書館との一体的な利用を促進するような居場所づくり、本・郷土資料を活用したソフトプログラムの工夫が望まれます。また、周辺施設からの歩行者の流れを考慮した新図書館の外構整備も併せて検討が必要となります。

■計画敷地周辺図



(2) 関係施設との連携方針

読書活動を通じた連携施設として、富士岡地区図書館、富士山市民のサロン「けやきかん」、学校図書館や放課後児童クラブなどが挙げられます。これらの施設との連携方針については「第2次御殿場市子ども読書活動推進計画（改訂版）」において施設ごとにまとめられています。

新図書館としての新たな立地環境や郷土資料コーナーを併設することなどを加味した施設連携例は下表のとおりとなります。

■近隣・関係施設との連携例

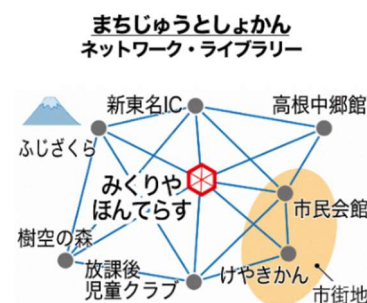
近隣・関係施設	活動・サービス	郷土資料	団体貸出	移動図書館車
市民交流センター 「ふじざくら」	大人の読み聞かせ 哲学カフェ	交流ロビーへの展示	市民活動グループ	イベント利用
子ども家庭センター	おはなし会の開催 出張講座		子ども図書コーナー	
保健センター（将来）	ブックスタート事業		絵本コーナー	
高齢者福祉施設	認知症カフェ	回想法・民具貸出	デイサービス	
富士山市民のサロン 「けやきかん」	不登校児童生徒ケア	ギャラリースペース への展示	学生、ビジネスマン 向け書籍の貸出	大人の読み聞かせ
学校図書館	社会科見学の受入 子ども司書の養成	出張展示・授業	学級文庫	
放課後児童クラブ	出張講座	教材貸出	図書コーナー	出張読み聞かせ

(3) まちじゅうとしょかん ～ネットワーク・ライブラリー～

新図書館がハブの中心となり、ブックシェアリングごてんば※、地域文庫※の開設など、これまでの取り組みを一層推進し、「本」を介したつながりや、施設間のネットワークが生まれるような仕組みを検討します。

※ブックシェアリングごてんば：家庭等で読まなくなった絵本・童話等の回収と団体、事業所等への無償提供を行う市民活動の一環

※地域文庫：個人やグループが、公民館や集会所などの地域の施設を利用して、子どもに本の貸出やおはなし会、絵本の読み聞かせなどの活動をしている私設図書館



【参考事例1】まちじゅう図書館（山口市）

まちなかの人が集まるカフェや美容院など15か所に「サテライトライブラリー」を設置し、図書館でセレクトした本を専用の木箱に入れてデリバリーし、定期的に入れ替えます。

【参考事例2】旅する文庫（福井市）

飲食店などに本を置き、利用者が借りた本を別の場所に返すことで本を介した交流を促します。カフェや公民館、空いた商品棚など小規模なスペースから始められる取り組みです。

第6章 施設計画

1 配置計画

(1) 配置計画方針

駐車場からの動線計画や、敷地特性に配慮した配置計画とします。以下に方針を整理します。

■配置計画の基本方針

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 周辺施設に配慮した敷地内動線 | 4. 敷地環境を活かした外構と建物の一体的な計画 |
| 2. 利用者・サービス動線の分離 | 5. 敷地勾配に適した合理的な計画 |
| 3. 敷地内の歩車分離を徹底し、安全に配慮 | 6. 利用しやすいアプローチ計画 |

(2) 駐車場整備方針

基本構想で定められた目標駐車台数等を基に、想定利用者数からサービス水準を導き出して検証を行います。ここでは敷地の活用イメージと駐車場の整備手法、周辺公共施設との駐車場連携利用についても検討を行います。

駐車場に関する配慮事項

- ・ 駐車場入口と出口の分離
- ・ 歩車動線の分離
- ・ サービス車両動線と一般駐車場動線の分離
- ・ 市民交流センター「ふじざくら」側の駐車場出入口と対面しないような出入口位置の検討
- ・ 夏季の降雨、冬季の積雪に配慮した屋根付思いやり駐車場スペースの検討
- ・ 書籍の返却、イベント利用、バス停の設置など、将来的な利用変化にも配慮した、使いやすい車両乗降スペースの検討

(3) 駐輪場の整備方針

第4章 2.(2)施設サービス水準の設定より、駐輪場は40台程度の確保を目標に検討します。

駐輪場に関する配慮事項

- ・ 歩車動線の分離
- ・ 自動二輪車の利用に対する動線の配慮

2 建築計画

(1) 建築計画の基本方針

基本構想に掲げられた基本的な方向性を具体化するために、建築計画についての方針を整理します。

■建築計画の基本方針

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 課題解決支援のためのレファレンス機能の充実 | 4. 効果的・効率的な施設管理を実現するDX計画 |
| 2. 誰もが快適に過ごすことができる居場所づくり | 5. ユニバーサルデザインに配慮したサイン計画 |
| 3. 郷土資料の収蔵・展示・研究スペースの確保 | 6. わかりやすい書架計画 |

(2) 平面・断面計画

施設面積を 3,800 m²程度とした場合における、敷地に対しての平面・断面構成を検討し、それぞれの利用者動線や運営管理動線、敷地勾配の影響などを踏まえ合理性を検証しました。

①断面計画

断面構成では、書庫のみを上階に上げた1フロア案が動線計画、建設コストにおいて優れていると考えられます。

■断面構成比較表

項目	2フロア案 (基本構想)	1フロア案 (書庫上階)	1フロア案 (書庫下階)
: 利用者エリア : サービスエリア			
わかりやすさ	△	◎	◎
バリアフリー	△	◎	◎
サービス動線	△	◎	△
敷地傾斜の影響	◎	○	△
建設コスト	◎	◎	△

②平面計画

平面構成では、同心円状に凹凸のある壁面を持たせることで、整形の長方形平面で計画したよりも多くの採光、書架収納、閲覧空間が確保されと考えられます。また各コーナーに分節された「コマ」を配置し、本に囲まれた空間とすることで利用者が本を探しやすい構成とすることができます。同時にサービスカウンターからの視認性も確保しやすい計画となります。

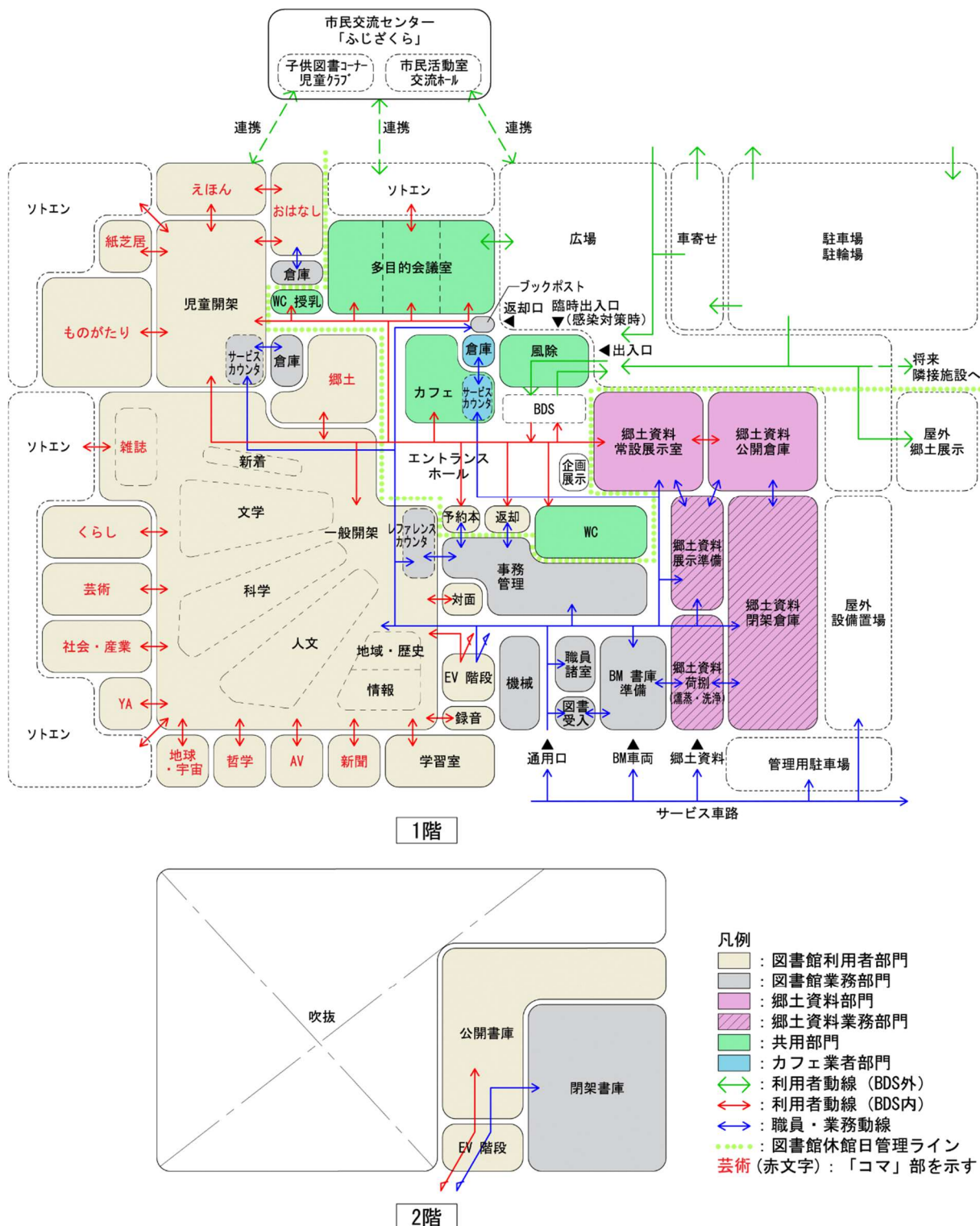
■平面構成比較表

項目	通常レイアウト	周囲に開いたレイアウト
1マス 5.4m×5.4m — : 窓面 — : 壁面 — : 間仕切壁 - - - : 動線・視線		・見通しやすい放射状配置 ・閲覧室充実 ・まちとのつながり
窓面	16枚	24枚
壁面書架	100棚	320棚
閲覧空間	32マス	37マス

(3) 必要諸室の相互関係

基本構想で挙げられた必要諸室について、管理区分や利用者・サービス動線、周辺連携施設との間で想定される利用者動線など、計画で想定される相互関係方針を以下に整理します。これに基づき、計画に先立ち整理する必要がある課題を抽出し、基本設計段階における平面計画を実施するものとします。

■必要諸室相互関係図



※YA(ヤングアダルト): 子どもでも大人でもない世代

※BM(ブックモービル): 移動図書館車

※BDS (ブックディテクションシステム): 図書館システム・物理セキュリティ・予約管理システムなど図書館に特化したセキュリティーシステムを指します

（４）感染症を踏まえた計画

新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症の状況を踏まえ、施設のサービス面・建築面の整備方針を検討するに当たり、「基本的事項の決定と実施の確認に関するチェックリスト（公益社団法人日本図書館協会）2021年10月19日」を参考に、対策区分や運用上の対策方法に基づいて整理します。

■感染症対策一覧表

施設整備上の対策
○エントランス周りの情報提供スペースの充実 ○消毒設備の設置スペースの想定・確保 ○手洗い・消毒コーナーの充実 ○書籍の除菌設備の設置想定 ○アクリル板等の設置位置、保管場所の想定 ○フロアマーカ―を設置など、カウンターの順番待ちで 最低1m（できるだけ2mを目安に）の間隔を空けて整列を促すような工夫 ○返却・貸出スペースの分散配置など、人が密集しないような工夫 ○適切な空調設備を活用した常時換気、又はこまめな換気 ○清掃及び共用スペースやウイルスが付着する可能性のある場所の定期的な消毒の実施（アルコール等による拭き取りを考慮した素材選定） ○抗菌・抗ウイルス性のある素材選定 ○自然換気、機械換気の促進 ○空調設備による加湿の検討 ○扉の非設置、自動扉など非接触型扉の選定 ○手が触れる場所への抗菌・抗ウイルス性のある材料選定 ○不特定多数が接触する場所（便座、床、ドアノブ、洗面台の水栓など）の清拭消毒が容易となるようなSK（掃除用流し）の位置等の配慮

（５）サイン計画

誰もがわかりやすいユニバーサルデザインに配慮します。大きく見やすい文字表記、明度差があり識別しやすい配色、御殿場らしさを感じる素材感、ピクトグラムを併記するなど直感的にわかりやすいデザインの採用、英語表記による海外の利用者に対する配慮など、多種多様な利用者が安心して利用できるようなサイン計画とします。

蔵書関連サイン

書架配置や収蔵している書籍の分類が一目でわかるような位置、形状、色彩等に配慮します。また書架側面サインは紙差し替え式など、図書配置の変更にも対応が容易となるよう配慮します。

デジタルサイネージ

一時的なポスターの掲示やパンフレットの配架などについて、デジタルサイネージ※を取り入れた情報発信を検討します。

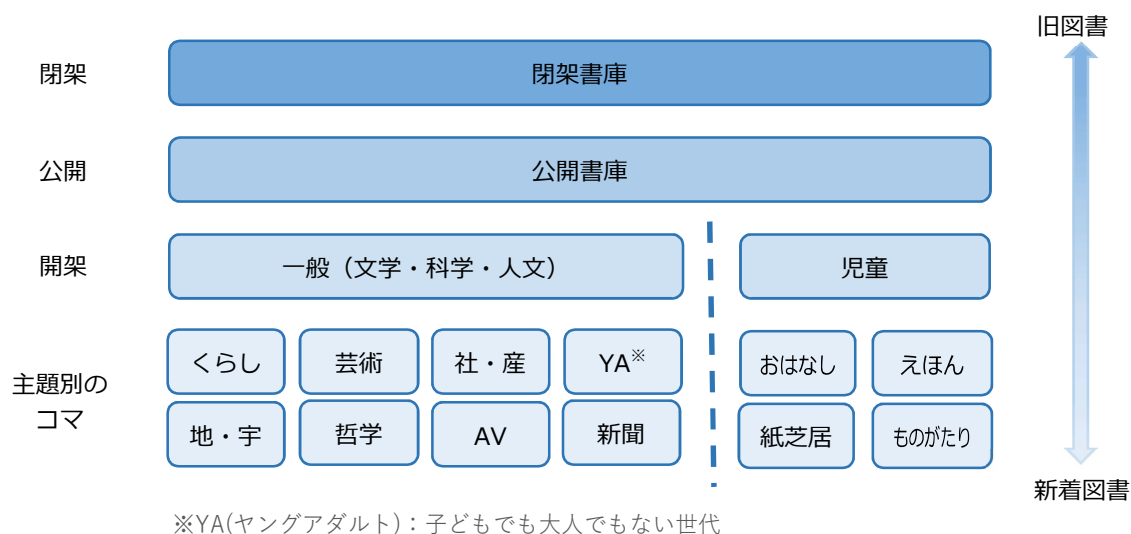
※デジタルサイネージ：ディスプレイやプロジェクタなどによって、映像や文字を表示する情報・広告媒体のことを指します

3 配架・書架計画

御殿場の民家をモチーフとした、新図書館のコンセプト「コマ」を活かした配架計画とします。新旧図書の配架として、新着図書を各コマへ配架し、一般開架、公開書庫の順に図書を循環させ、閉架書庫へ保管される流れとします。

各コマはテーマを持たせて配架計画を行うとともに、多様な企画・活動を展開可能な場とします。コマ以外の一般開架には、文学、科学、人文を配架します。児童開架については「ものがたりのコマ」、「紙芝居のコマ」、「えほんのコマ」、「おはなしのコマ」のように特色をもたせたコーナーを設けます。

■配架イメージ



書架計画の留意事項

- ・各コーナーに配架される資料の大きさに適した寸法（幅、高さ、奥行き）とします。
- ・書架の素材（スチール製、木金混合、木製）は長期間の使用に耐えられる耐久性と堅牢性への配慮、コスト面と可変性、内装仕上げとの組合せを考慮して検討します。
- ・書架の段数は利用者の利便性や視認性、収蔵量に配慮して検討します。
- ・職員の管理のしやすさ、利用者への見守りやすさに配慮して検討します。

■木を使った書架事例



木製書架（杉材）



木金混合書架（側板木材）



木金混合書架（棚板木材）

4 郷土資料展示計画

(1) 郷土資料の現状、課題

現在、「御殿場市民俗資料収蔵庫」には、豊富な実物資料が保管されています。主な収蔵資料は、富士山測候所資料、民俗資料、考古資料（約 4,500 点）や土器や石器などの考古資料となります。

新図書館では、限られた展示スペースの中で、これらの資料を有効に展示、保管していくことが求められます。資料の入れ替えや更新が容易でフレキシブルな展示を行い、歴史と文化の普及・啓発活動に繋げていくことが課題となります。

(2) 展示整備の方針 ～身近な郷土展示「御殿場アーカイブ」～

実物展示を基本としつつ、「展示」と「情報（デジタル）」を組み合わせることで実物展示とのすみ分けを行い、御殿場市の郷土の魅力を感じられる展示計画とします。

■重点項目

- ・実物資料をしっかりと展示し保管する場
- ・展示と図書の主体的で深い学びに向けた効果的な連携
- ・御殿場の歴史や魅力が情報集約されたデジタルプラットフォームの検討・整備

特に、展示と図書を効果的に連携させることで、子どもや多世代の来館者が郷土に興味を持つような、きっかけづくりの場とします。

郷土の歴史や魅力を知ること、市の未来を担う子どもたちが御殿場をより身近に感じ、愛着や誇りを持ってもらう事が期待されます。

■展示と図書の連携イメージ



(3) 展示の基本的な考え方 ～図書エリアとの連携～

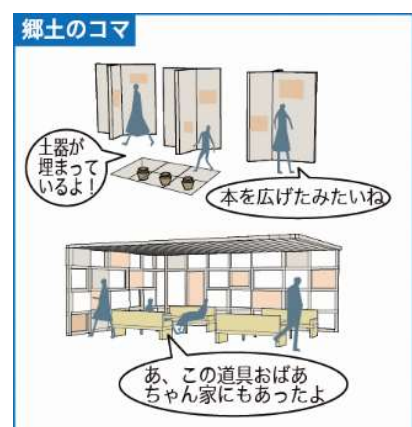
御殿場をより身近に感じられる展示方法を検討します。

建物のコンセプトのひとつである図書エリアの「コマ」を展示空間として活用するほか、郷土資料を扱う「郷土のコマ」では展示物を図書の内容とリンクさせることなどが考えられます。

屋外スペースを利用した屋外展示を検討し、施設全体を活かした展示を推進します。屋外展示としては、富士山測候所にゆかりのある「雪上車」や「パラボラアンテナ」、「切土した御殿場の地層」などを想定します。

市内のイベントや観光情報を含め、観光客をはじめとした市外の人にも情報を分かりやすく発信できる計画とします。

■展示方法の例



■郷土資料展示の方針（参考事例）

資料や魅力を一覧・一望できる展示例



三重県総合博物館 MieMu
▶写真と動画による歴史展示



凸版印刷 ニッポンギャラリー
▶観光施設情報のビジュアル展示



お茶ナビゲート（御茶ノ水）
▶地元の自慢スポットの記録ボード

実物資料の展示、図書と展示の融合例



福井県ふるさと文学館（県立図書館内）
▶土地にゆかりのある偉人の紹介と著書を隣接して展示



対馬博物館分館
▶展示と隣接する図書検索コーナー

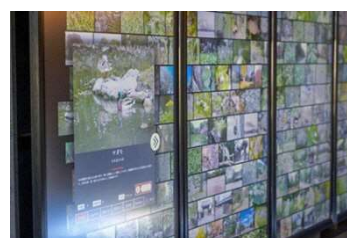
デジタル技術を活用した演出例



漢字ミュージアム
▶タッチパネルの遊べる展示



勧進帳ものがたり館
▶AR 技術の活用



京都御苑情報館
▶サイネージによるアーカイブ展示

（４）収蔵の基本的な考え方 ～収蔵品をできるだけ公開～

施設全体を活かした展示方法のひとつとして、公開倉庫を検討します。また、郷土資料の収蔵方法や保管環境などの仕様について具体的な検討をしていきます。



■収蔵品展示例

収蔵展示、収蔵品のアーカイブ展示例



フェザーミュージアム
▶ガラスによる収蔵展示



三重県総合博物館 MieMu
▶収蔵品のデジタル展示

5 DX 計画

(1) ICT※を活用し利便性向上と効率化

- OPAC※や全館 Wi-Fi 化など利用者サービス向上につながる設備の導入を検討します。
- BDS※や貸借手続きの自動化など図書管理の効率化を図ります。
- IC タグ※の導入を検討します。

※DX（デジタル・トランスフォーメーション）：本計画においては、「自治体・住民等がデジタル技術を活用し、住民本位の行政・地域・社会等を再デザインするもの」を意味します

※ICT（Information and Communication Technology）：通信技術を活用したコミュニケーションを指します。その他にもインターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称を意味します

※OPAC（Online Public Access Catalog）：図書館や資料館などの利用者が使えるように整備された、オンライン蔵書目録検索システムを指します

※BDS（ブックディテクションシステム）：図書館システム・物理セキュリティ・予約管理システムなど図書館に特化したセキュリティシステムを指します

※IC タグ：情報の記録と電波等による無線で通信する機能を持つタグのことをいいます

(2) ICタグの導入

IC タグの導入により蔵書管理や自動貸し出し・返却、盗難防止など、より効果的に運用することが可能となります。IC タグは大きく HF 帯と UHF 帯があり、新図書館では建築計画との自由度が高い UHF 帯を基本として検討します。

■UHF 帯の特徴

- HF帯と比べてタグ単価が抑えられる
- 建築計画に合わせてセキュリティゲートのしつらえを調整可能
- 今後の普及が見込まれる

(3) 電子図書館

来館しなくとも電子図書の閲覧が可能な仕組みを検討します。また、郷土資料などの貴重な資料について、電子データ化を推進します。

(4) デジタル利用カードの導入

デジタル利用カード※の導入を検討します。

※デジタル利用カード：図書貸し出しに利用されるカードをスマートフォンなどのデジタル媒体で代用するサービスを指します

6 木材利用計画

郷土の図書、木材、人が関わることにより、郷土の誇りとなるような図書館を目指し、御殿場産木材を活用した場を検討します。また、市域以外の地域産材、県産材などを含めて、建物の内装仕上げ、書架、造作家具など、木材活用について検討を行います。

7 環境配慮への取り組み

新図書館のライフサイクルを通じた環境負荷低減に向けた次に掲げる技術的項目に配慮し、具体的な取り組みを検討していきます。

(1) 環境負荷の低減

- ・断熱性の高い材料・構法の採用等により、躯体を通した熱負荷を低減。
- ・断熱・日射遮蔽性の高い建具及びガラス、庇等の採用により、開口部を通した熱負荷を低減。
- ・エネルギー損失の低減を考慮した建築設備システムの導入。

(2) 自然エネルギーの利用

- ・自然光の活用により、照明負荷を低減。
- ・自然通風の活用により、冷房負荷を低減。
- ・太陽光発電、太陽熱給湯、外気冷房等による自然エネルギーの積極的な利用。

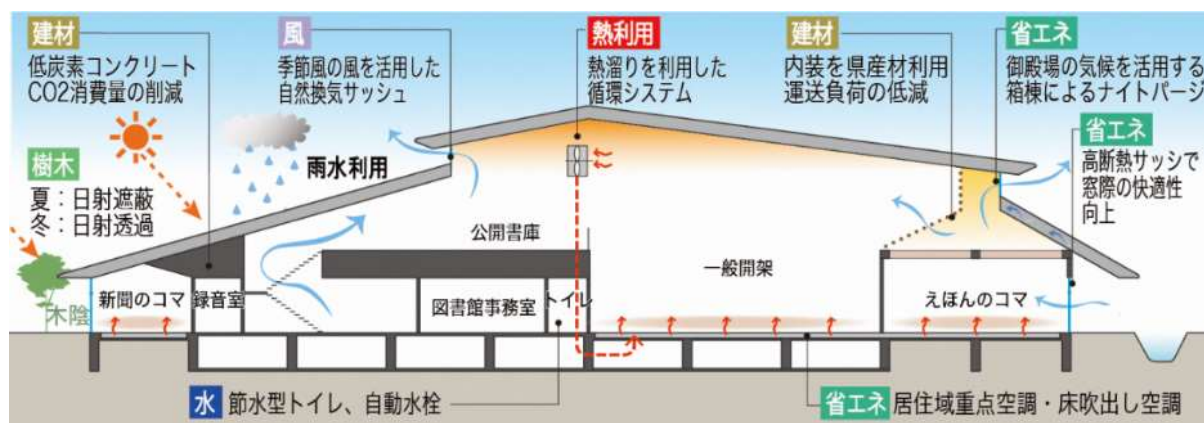
(3) エネルギー・資源の有効利用

- ・エネルギーの変換及び利用が、効率的に実施されるような建築設備システムの導入。
- ・電力負荷の低減及び平準化。
- ・施設部位に応じた運転制御方式により、搬送エネルギーを最小化。
- ・高効率照明器具の使用、施設に応じた点灯方式の採用等により、照明エネルギーを最小化。
- ・雨水、湧水の利用、各種節水システムの採用等により、水資源の消費低減。

(4) エコマテリアルの使用

- ・環境負荷の少ない自然材料等を採用。
- ・廃棄物等の再使用又は再生利用した資機材の使用。

■環境配慮への取り組みイメージ



第7章 管理運営計画

1 管理運営の考え方

指定管理者により運営されている他市の類似図書館について運営者へ下記項目についてヒアリングを行い、新図書館における運用区分・方針の整理を行いました。

図書館運営業務、貸室運営、新館移転業務については、指定管理者により運用される事例が多く、建物維持管理業務については一部、専門業者へ委託している事例が見受けられました。

郷土資料展示の管理運営については、資料の収集整理や常設展示を指定管理業務として扱う事例がある一方で、企画展示や調査研究・普及啓発活動を自治体と共同で担う事例も見受けられました。

カフェ等の運営及び業務委託については各施設で運用方法が分かれていましたが、指定管理者が運用を担う場合においても、他社へ委託するケースや、飲食事業者を一般公募するなど、間接的に運用されている事例が多く見受けられました。カフェの運営について、今後も引き続き検証が必要となります。

交通アクセスについて、新図書館の移転に伴い発生する利用者のニーズや現在の公共交通の実情などを確認し、利用者の移動手段を持続的に確保するための手法について地域公共交通や近隣施設との関わりなども含めて検証し、誰もが安心して新図書館へアクセスできる交通手段について検討委員会を組織して検討していきます。

■運用区分に関するヒアリングを実施

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 図書館運営業務 | 4. 新館移転業務 |
| 2. 貸室運営 | 5. 郷土資料展示の管理運営 |
| 3. 建物維持管理業務 | 6. カフェ等の運営及び業務委託 |

■新図書館の管理運営・施設連携について期待される項目

項目	期待されること
新図書館	・多目的室の運用 ・イベント開催 ・移動図書館、他館連携
富士岡地区図書館	・本館との連携
富士山市民のサロン「けやきかん」	・自習室の運用 ・移動図書館との連携
郷土資料（常設）	・入館者の管理、会議室等の運用 ・イベント開催
郷土資料（企画）収蔵庫	・学芸員の知識の蓄積 ・学芸員による資料の特徴を活かした展示 ・長期にわたる調査研究
カフェ	・イベントとの連携

2 図書館の機能移転・開館計画

基本構想において、整備計画における条件として以下が挙げられています。

■整備計画における条件（基本構想より）

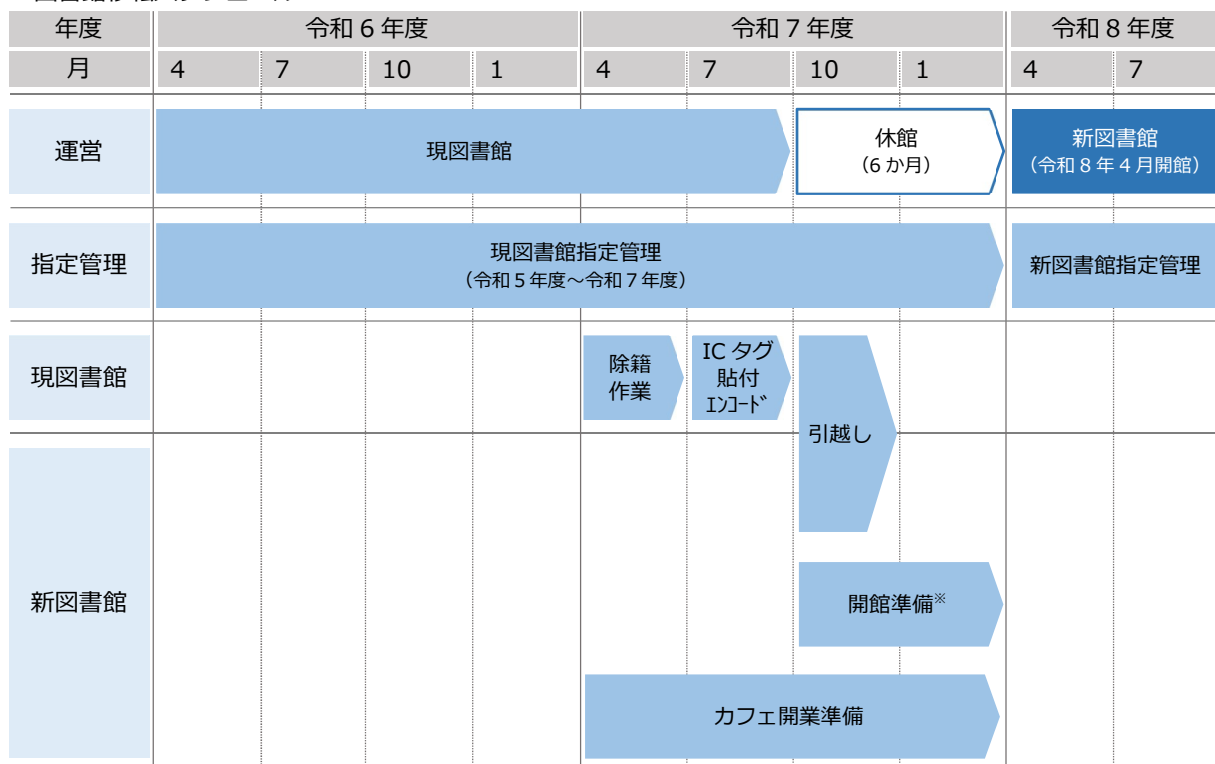
- ・新たな場所に施設整備をする間、現図書館は現状どおり開館を続ける
- ・民俗資料収蔵庫等の資料を展示する郷土資料館的機能を持った施設の併設を検討する

現図書館の休館期間をなるべく短くしながら開館に向けた準備業務を進めることとします。準備業務は、配架作業、配架シミュレーション、新規図書選書、除籍作業、IC タグ貼付・エンコード※、引越し、式典準備、HP 作成、教育訓練などを想定しています。

また、郷土資料コーナーに配置する資料品の移設・陳列作業も同時期に行います。

※エンコード：IC タグに図書資料の情報を書き込む作業のことを示します

■図書館移転スケジュール



※配架シミュレーション、新規図書選書、式典準備、HP 作成、教育訓練 等

第8章 事業計画

1 施設整備に関する費用

本計画において策定した内容を踏まえ、今後の建物に係る概算事業費を下表に示します。

■概算想定事業費（税込）

区 分	数量	概算事業費	備 考
本体建物建設費	3,800 m ²	20.6 億円	建築、空調換気、給排水衛生、電気、昇降機
	1 式	2.4 億円	書架、案内サイン等
合 計		23.0 億円	

2 事業スケジュール

令和3年度から基本計画を開始し、基本設計・実施設計を令和4年度から令和5年度にかけて実施し、令和5年度中の工事着手を予定しています。図書館などの機能移転を含め、令和8年度からの供用開始を目指します。

■事業スケジュール

年度	令和3年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度
月	1	6	12	7	1		10	4
事業工程	基本計画		基本設計	実施設計		建設工事	開館準備	令和8年4月開館

御殿場市立図書館等整備基本計画

発行：御殿場市教育委員会 社会教育課

〒412-8601 静岡県御殿場市萩原483番地

TEL/0550-82-0339 FAX/0550-81-0370

令和4年11月